

平成28年度通常総会

第23回通常総会を下記の通り開催し、会員の皆様にはご多忙中にも拘わらず多数ご出席を賜り、お蔭で、無事終了しましたことをご報告いたします。

1. 日時 平成28年6月24日(金) 13:45~15:00
2. 場所 ホテルセントヒル長崎 3F「紫陽花」
3. 正会員 総数 65社
4. 出席者 58社(出席27社+委任状31社)

第1号議案 議事録署名人の選任:

中野一英理事・酒井良文監事を選任

第2号議案 平成27年度活動報告並びに決算・監査報告承認の件: 満場一致で承認

第3号議案 理事・監事選任の件:

満場一致で承認

平成27年度 活動報告

平成27年度の我が国経済は「大胆な金融政策」、「機動的な財政政策」、「民間投資を喚起する成長戦略」を柱とする経済財政政策の推進により、雇用・所得環境が改善し、



平会長

原油価格の低下等により交易条件が改善される中で、緩やかな回復基調が続きました。

長崎県内経済も個人消費や生産の持ち直し、雇用の緩やかな改善など、総じて持ち直しつつ推移してきました。平成27年度は長崎県総合計画の最終年度となり「人口減少対策」及び「県民所得向上対策」の充実強化、また、「しごとを創り、支える」、「まちを創り、支える」、「ひとを創り、支える」の3つの視点をもって重点的に取り組み、一定の成果がありました。当協会活動におきましては、重点事業として取り組んでいる研修事業、JISA補助金による地域高度IT技術者育成事業に多くの方に受講いただきました。iCD活用企業には昨年参加の3社を加え6社が「認定企業」に登録されました。次に情報提供事業ではホームページやメールで皆様に有益な情報をお届けしました。2ヶ月毎に開催していますビジネスコラボ会には、協会役員のみならず一般会員の方々も参加され、お互い親交を図りビジネスの協業へ発展し成果を上げておられる例もあります。さて、全国各地には当協会のように地域情報産業の組織がありますが、その連合組織として全国地域情報産業団体連合会(ANIA)があり、当協会も加盟しています。ANIAでは毎年全国大会を各地で開催しており、今年は秋田ですが次年度は長崎です。

会員企業が一致団結する機会にもなりますので、来年秋の開催に向けて準備を進めていきたいと思いません。平成27年度に賜りました皆様のご支援・ご協力に改めて感謝しご挨拶と致します。

1. 地域情報化の推進活動

- 1-1. 地元企業間連携(コラボ)による県事業の推進
- 1-2. 東長崎エコタウン(講演会、メガソーラー発電施設見等)
- 1-3. 長崎県ICT化推進連絡会議(県内中小企業の情報化支援)
- 1-4. 長崎県IT融合化推進協議会(講演会)
- 1-5. 長崎県産業人材育成産学官コンソーシアムの設置と会員参加
- 1-6. ながさきICT戦略研究会の設立と会員参加
- 1-7. 長崎県工業連合会へ参加
- 1-8. 第6回国際スマートグリッドEXPOへ出展

2. 交流事業

- 2-1. シンガポール視察(JETRO、(株)ブイキューブ)
- 2-2. ANIA総会、第37回全情連いしかわ大会
- 2-3. 長崎県工業技術センターとの意見交換会
- 2-4. 通常総会・臨時総会・講演会・交流会
・わが社の一押し
- 2-5. ビジネスコラボ事業(2ヶ月に1回開催)
- 2-6. IPA第11回「ひろげよう情報モラル・セキュリティコンクール」

3. 研修事業

- 3-1. NISA主催による研修(20講座、187人の受講)
- 3-2. JISA補助金による研修(2講座、28人の受講)
- 3-3. JAVA7[®]リケーション技術者養成研修(7人受講)
- 3-4. 第2回iコンピテンデ「イノボナリ・ワークショップ」

4. 人材高度化能力開発事業

キャリア形成促進助成金活用支援

5. 情報収集提供事業

政府、自治体、業界団体からの有益な情報を提供

6. 講演・セミナー事業

通常総会・新春講演会時の講演会、マイナンバーセミナー、IT融合化講演会

7. 理事会(計11回)



総会会場

平成28年度 活動方針

【基本方針】

平成28年度においては、「一億総活躍社会の実現に向けて緊急に実施すべき対策」など、「平成28年度の経済財政運営の基本的態度」に示された政策の推進等により、雇用・所得環境が引き続き改善し、経済の好循環が更に進展するとともに、交易条件が緩やかに改善する中で、堅調な民需に支えられた景気回復が見込まれます。物価については、経済の好循環の進展により、需給が引き締まっていく中で上昇し、デフレ脱却に向け更なる前進が見込まれます。本県では、H28年度は「長崎県総合計画 チャレンジ2020」の初年度で、厳しい財政状況の中、選択と集中により、県勢の発展に必要な施策に予算の重点化を図りつつ、県民が住みなれた地域で、将来に向けて夢や希望を持って暮らせる「人・産業・地域が輝くたくましい長崎県づくり」の実現に向けて、全力をあげて取り組む基本方針であり、これに対応するIT産業に関連した県・市の取組みに期待しております。このような中、本年度も「一般社団法人」としての趣旨に従い自主運営・管理の下、非営利法人として会員や県内事業者の皆様のお役にたてることを第一に、先進的なテーマへの取組みを交えながら運営していきます。なお、協会の加盟する全国地域情報産業(ANIA)の平成29年度長崎大会開催に向け、会員の皆様とともに準備を進めて参りますので、一層のご協力をお願い致します。

「我が社の一押し」

■システムファイブ(株)



杉永氏

技術系システム開発を行うシステムファイブ(株)、医療系システム開発を行うSFKメディアカル、シニア技術者集団のSFKエンジニアリング(株)からなるグループの特徴や得意技術の

話を交えながらスモールオフィス向けエネルギー監視装置(SEMS)製品の紹介をしていただきました。SEMSによる計測・可視化で情報を共有し分析・対策を行い電力使用量の抑制につなげるというPDCAサイクルを実現する製品となっています。

このことにより①オフィスの省エネ意識アップ、②省エネによる電力コストダウンを実現します。機能や特徴については、オフィスの分電盤に電流計測センサー(クランプセンサー)を取り付けて電力監視を行います。その結果は画面のグラフ表示や帳票出力で確認できます。

販売価格：15万円/セット

セット内容：SEMS-PU×1(センサー入力)

SEMS-SV×1(Webサーバー)

クランプセンサー×10(センサー)

Wifi通信を採用しており自由度の高い配置が可能です。

新会長あいさつ



IT産業の役割はますます高まっており、社会・産業活動のイノベーションを牽引する産業として欠かすこのとできない存在となり、その対象もあらゆる分

野に拡がり、急速に進歩しています。これらに対応出来る人材こそ経営資源の大きな柱であります。当協会では、地域におけるIT関連就業者の研修機関として、皆様のニーズに沿ったカリキュラムを企画編成し研修事業を行っております。併せて、国などの種々の助成金に関する情報を検証しつつ、その適用に関する支援活動により、より安価な費用で受講ができるように助成金の手続きについて支援を行っております。研修事業に加え、ITに関連する情報提供や会員企業の共通の課題への取り組みも当協会の重要な役割であります。ITに関する種々な情報が氾濫するなかで、これらをまとめてワンストップ化した情報提供を、ホームページやメールで皆様にお届けし、「情報セキュリ

ティー」、「オープン化・クラウド化」、「スマートフォン・タブレット端末の活用」といった喫緊の課題にも積極的に取り組んでおります。今後、[IoT、ビッグデータ分析、AI、ロボット]等の最新技術の活用にも取り組んで参ります。

また、地域IT産業で協力・強調して事業を進めるにあたり、人的交流が欠かすことのできない活動と位置づけ、オープンな交流の場として「ビジネスコラボ会」を開催しております。当協会では以上のような活動を通して、行政、関係機関や事業者の皆様と連携しながら、情報化社会をリードするICT技術企業集団として、お客さまの情報化を推進し、地域産業の活性化に貢献して参りたいと考えております。皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

■(株)MHPSコントロールシステムズ



三條西氏

制御セキュリティへの取組みを紹介していただきました。基本は制御対象となるものがありそれを守ることが一番大切であるということです。

- ①制御システムはトレーニングから
いろんな仕組みを作っても、機器を導入しても最後は人であり、使う人がセキュリティを意識しているか？ 社内の決まりをきちんと守っているか？ 定期的な教育(トレーニング)が不可欠です。体験キットを使ってDoS攻撃、リプレイ攻撃などによるインシデントの疑似体験ができるトレーニングを提供しています。
- ②セキュリティ製品
Kaspersky(カスペルスキーが) Industrial(産業用に提供する) Cyber(サイバー攻撃犯・犯罪対策) Security(セキュリティサービス)
世界的に有名なコンピュータセキュリティ会社と提携したセキュリティ製品を提供します。
- ③これからの展開
セキュリティはPDCAであり、定期的にチェックをすることが必要です。お客様の環境を実際に監査し、問題点を指摘するとともに改善方法の対案までサービスを提供したいと思います。

「講演会」



菊森氏

「企業・都市経営とICTのインターフェース」という演題で、公益財団法人ながさき地域政策研究所・研究所長兼長崎総合科学大学大学院・客員教授の菊森淳文氏をお招きして講演会を開催しました。

36年ほど前にアメリカ・シカゴでコンピュータシステムの可能性に驚いたという情報システムと出会い、システム開発の知識は無いのに300人規模のシステム開発者達のリーダーを任せられた銀行員時代から。インターネットをまだ技術者と言われていた人達しか使っていなかった時代、日本の優秀な人材を活用しモンテカルロシミュレーションをできるシステムを作成したこと、アリババグループの創業者であるジャック・マー氏が長崎大学で講演をしたことがあるなど興味深い話から始まり、大きく4つの項目で具体的な取組や今後の動向について説明されました。

1. 情報システムと社会

- ①長崎県では、少子化とその原因とされている晩婚化や未婚率の上昇に歯止めをかけるために独身男女のめぐりあいのきっかけづくりを提供する「ながさきめぐりあい事業」をながさき地域政策研究所と協働で行っている。
- ②ウェアラブル端末を利用して運動データを集め健康管理に利用している。これに関連し介護や医療分野も市場が拡大しているし機器の性能が向上し安価な製品も見られるようになった。
- ③交通ICカードの普及により混雑の緩和と決済の簡易化が図られている。
- ④ナレッジマネジメントのIT化を考えた時に法律・医療分野の情報共有とデータベース化が図られることで様々な活用アイデアが出てくるのが期待されている。

2. 情報システムと企業経営

- ①介護経営管理サポートシステムを導入することで業務の効率化をはかり時間あたりの生産性をあげることで企業が利益を得て従業員の賃金をあげていくこと取組みが長崎県内の中小企業にとっても課題となるのではないかと。
- ②長崎県内の中小企業の情報システム導入は全国と比較するとまだまだ遅れているように思う。予算が少なくシステム導入に積極的でない経営者にいかにコンサルしてシステムを導入していただけるかが長崎県の情報産業に関わる方々に問われているのではないかと、1社では無理でも、数社で予算を組むような考えも必要だと思う。その際産業別に分析することが大切です。
- ③離島の島民が発信する島の情報（交通・宿泊・観光スポット・イベント等）を活用することで旅行者の潜在ニーズを掘り起こすような取組みも企業が行えることでもあります。
- ④どう作るから何を求めるか、お客様は何を求めているかが重要ではないか。それとITをどう組み合わせるかがこれからの製造業の課題になると思う。

3. 情報化システムと都市経営

- ①現在持っているデータベースをどう活用して県民の利便性を高めていくかが課題である。
- ②情報にアクセスしやすい環境づくり(wifiアクセスポイント)が課題である。
- ③独居老人への食事配達と見守りのような仕組みで自治体が抱えている社会的な課題にも対応できる。
- ④観光スマートシティ構想（ビッグデータ活用）では観光者のリアルタイムな動向を収集することでどの場所にどの国の人がどのように動いているかが分かる。そうすれば人気のある場所もよく分かるようになる。さらにそのデータを分析することで潜在ニーズを掘り起こしこちらから観光客に情報を提供し観光地等へ誘導することができるようになる。
- ⑤観光業が盛んな長崎ではあるが、外国人観光客に対して観てみると様々な言葉に迅速に対応することは難しいという状況であり、これを解決するためにタブレットアプリ等を多言語化で作成し利用していただくような取組みも必要である。
- ⑥AR技術を使った仮想現実で映像を見せることも有益である。

4. ロボットが変える社会

- ①県内企業の保有技術と参入障壁
ソフトウェア、センシング、知能・制御、機械加工・製造、駆動関節等の技術を有している。ティーチングに時間がかかる、市場規模が小さい、開発コストがかかりすぎる、要素技術が未成熟、販路拡大が見込めない等の障壁がある。
- ②今後開発が急がれるロボット分野として、斜面地火災への俯瞰的現場状況把握・ホースの自動搬送や二次離島への物資輸送等が考えられる。長崎県内での実績としては、船塗装ロボット、斜面移動ロボット、見守りロボット、海外向け収穫ロボット等がある。
ロボットの役割としては、人が行けないところ、危険なところ、例えば橋の場合、斜張橋に張られたケーブルの損傷状況やボルトの緩みを確認するなどが考えられる。



講演会会場

「交流会」



交流会を開催しましたところ、ご多忙中にも拘わらず長崎県企業振興課、総務部、長崎市商工部の方々にもご参加していただき地域発展につながるような交流・懇親の場を持つことができました。

中締では長崎県産業労働部企業振興課の上野課長補佐に長崎らしさを考えながら、IT・ロボット・医療の分野に取り組んでいかなければならないというお話をいただきました。皆さまのご協力に感謝いたします。



長崎県企業振興課
貞方 課長



長崎市商工部
尾上 部長



長崎県企業振興課
上野 課長補佐



長崎県情報政策課
山崎 企画監

懇親会前には会場となっているホテル前の広場で46個の提灯を竿につけた重さ50KGにもなる「竿灯」という夏の伝統的な出し物を見せていただきました。そして懇親会では昔は俺もプログラマーだった！とい秋田県知事の挨拶に始まり伝統芸能や秋田のお酒で盛り上がりました。最後に次年度開催予定であるNISAの挨拶と引き継ぎをして参りました。



秋田美人



踊るPepper



中野会長あいさつ



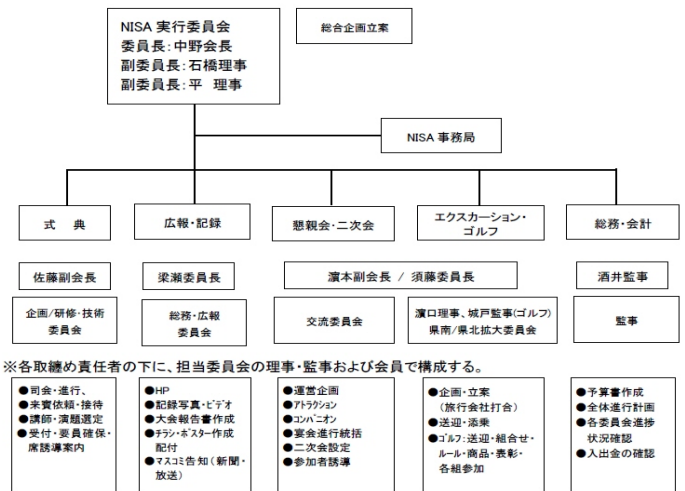
長崎の紹介

第39回全情連大会「ANIA長崎大会にむけて」

NISAの活動を長崎県内の皆様にPRしたり会員が一致団結する良い機会です。皆様のご協力をよろしくお願い致します。

- 開催日：平成29年11月9日(木)～10日(金)
式典・講演・懇親会、エクスカージョン・ゴルフ
- 場所：ホテルニュー長崎他
- 趣旨：長崎県をはじめ全国の情報産業の会員企業等が一堂に会し、地域情報産業の発展や取引拡大に向けた情報交流等を行うことにより、本県情報産業や地域の活性化に資することを目的として開催する。

ANIA 長崎大会開催 実行委員会体制



※各取組の責任者の下に、担当委員会の理事・監事および会員で構成する。

第38回全情連大会「ANIA秋田大会」



平成28年9月15(木)秋田キャッスルホテルで第38回全情連大会 ANIAあきた大会が開催されました。初めて秋田を訪れたという方も多かったようですが

晴天にめぐまれて素晴らしい大会となりました。①「街づくりにおけるICTの利活用」という基調講演、②あきた美人をビジネスにという企業家、国内外の学生を指導している大学講師、データセンターを都市圏から岩手・秋田・アジアで展開している実業家、コンサルタントで繰り広げられた「リレートーク」司会にはコメディアンを採用してテンポ良い進行でした。合間には「鬼のような姿をしたなまはげ」も登場するなど刺激的な内容でした。



基調講演



なまはげ



リレートーク

発行元：一般社団法人長崎県情報産業協会
〒850-0032 長崎市興善町4-6-701
電話：095-824-0332
発行責任者：会長 中野 一英
発行日：平成28年10月19日 第1版

(文責：総務広報委員会 梁瀬理事)